



新高退通信

No.152

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com

新潟高教組

発行所／新潟県高等学校教職員組合／新潟市中央区川岸町2-11／TEL (265) 4151／FAX (231) 1036／1部10円
(購読料は組合費に包含)

発行人 遠藤 丞

2025年12月3日
号外

新潟県高等学校
退職者の会

事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
(高校会館内)

退職者の会専用電話
025-265-1110



初日の全体行動、『日光東照宮』周辺散策
石鳥居まで (大原栄亮さん11円写真撮影)

第1回「日光東照宮」

新潟が酷暑の中、途中乗車も含め参加者18人を乗せたバスは一路日光・鬼怒川を目指した。途中『上州物産館』で水沢うどんを昼食に、予定通り「平成大修理」から5年の日光東照宮に到着し、各自周辺の見学・散策をする。以下旅程に従い参加者の旅行記を綴る

退職者の会の旅行にお誘いを受け、今回初めての参加。多数(20人ほど)のバス旅行は久しぶりで期待と不安(何の?)を抱えてバスに乗り込む。車内はすぐに自己紹介などで盛り上がりました。

日光東照宮は今回が2回目、10年ほど前に日帰りのバスツアーで行った時は、眠り猫まで見ましたが、今回はその先の奥宮まで行きました。眠り猫からそこまでの長く急な階段で、大量の汗と筋肉痛が記憶に残っています。

多くの社殿と色鮮やかな彫り物、塗り物はもちろん素晴らしいのですが、私は幹の直径が1・5mほ

5年ぶりに本部旅行を実施

「日光東照宮・日光山輪王寺」散策と、翌日の班別行動を楽しむ旅

翌日の班別行動を楽しむ旅

どの何本もの見上げる大杉にこそ悠久の歴史を感じました。東照宮が建てられる以前からそこに生き、建築の様子を見守ってきたのかと神々しさを感じました。

神厩舎の三猿では、それを背景に口や耳を片手で抑えながら、苦労して自撮りしているお二方がそばにいました。昔なら撮りましようかと私の方から声をかけたものです。向こうから頼まれたら手伝いますが、最近は控えるのがよいなど・・・

「去る者は追わず、来る者は拒まず」が人生を歩むのにちょうど良いなあと思う日々です。三猿の前なので「去る(猿)者」が親父ギャグになってしまいました。

宿(伊東園ホテルさくら)での懇親会は、私の好物の舞茸の天ぷらとコップ2杯(弱いなあ)のビールで良い気分。私も皆さんも、話足りないあつという間の2時間でした。

新津支部・大原栄亮(11)

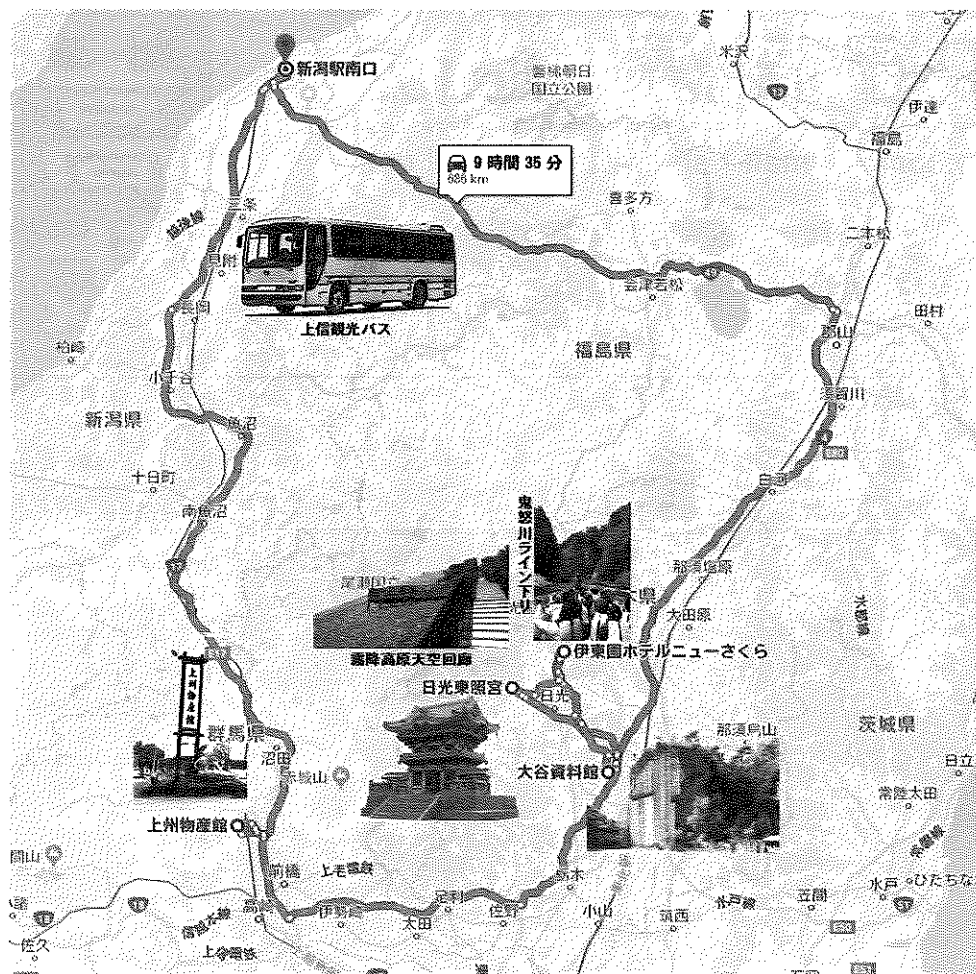
2日目午前は恒例の班別行動。そのコースは旅行を計画するたびに、毎回ジグソーパズルを組み立てるようなわくわく感で設定してきた。

今回の旅行でも、それぞれが体験(鬼怒川ライン下り)・見学(東武ワールドスクエア)・軽登山(霧降高原天空回廊)と趣向の異なる3コースを選んでの行動だ。

第2日「班別行動」

A班・鬼怒川ライン下り

2日目の班別行動は鬼怒川ライン下りを選ぶ。地球が沸騰していると言われるほどに高温続きその上雨も降らない新潟の昨今、川下りで水しぶきを目いっぱい受けて爽快になりたいという思いがあった。



ます」。他人様に迷惑が掛かっては大変とばかりにしぶしぶ備え付けの大きなビニールシートで水しぶきをよける。やや急流でビニールシートが必要だったのは2回ほど記憶している。

た。テレビの映像で観た熊本県の急流・球磨川下り、幼い日のウォーターシュートでボートが水面に入った時の水しぶきなどを思い起こしながら船に乗り込んだ。水底がすぐ手に取れるほどの近くに見えるが、川の水深は日本一であるとか。水が澄んでいるために底が浅く見えるとの説明に納得して舟は動き始めた。

川幅は広く波風も立てずに舟はゆく。30人乗りの舟も今日のお客は半分ほど、船頭さんの話術はさすがプロ。派遣社員3か月目とたたまいながらお客の方に顔を向けたまま、面白おかしく兩岸の岩の説明、花や鳥の名前を話すのに忙しい。水が澄んでいても川に泳ぐ魚の姿は目に入らず、残念ながら説明を聞くのみ。激流を下る球磨川の映像のような場面もない穏やかな川面を滑るように……待ってましたとばかりに水しぶきの場所へ来ると「ビニールを上げてください。後ろの人に迷惑が掛かり

最後の5分間ほどはモーターボートに引かれて到着となった。なんでもダム湖の入り口近くで流れが変わるからと説明されたが、モーターボートのお出ましがあるとは想像もなかった。上船前に説明もなかったと記憶している。物足りない気持ちもしたが、船頭さんの話術が楽しい30分であった。

川下りを橋の上から眺めるという観光客向け用に空高く大きなアーチが2か所、太く弧を描いていた。橋の上から手を振る人の姿が小さく空に溶け合っている景色を下から見上げながら、どの景色よりも絵になる景色だと感じ入った。これで30分3500円の川下りの観光宣伝になりますように。

	7時						8時						9時						10時						11時					
	10	20	30	40	50	60	10	20	30	40	50	60	10	20	30	40	50	60	10	20	30	40	50	60	10	20	30	40	50	60
A. 鬼怒川ライン下り	朝食						徒歩						9:35-船下り-10:15						戻り (貸切バス・バス)						昼食					
B. 東武ワールドスクエア	朝食						電車						9:00-見学-10:50						電車						昼食					
C. 霧降高原天空回廊	朝食						貸切バス						8:40-散歩-10:30						貸切バス						昼食					
班別行動後	貸切バス						大谷資料館 12:50-見学-14:00						貸切バス 14:00-途中休憩1時間-18:30																	

班別行動タイムスケジュール

私たちは歩いた「東武ワールドスクエア」は、世界文化遺産49件を含め、22ヶ国102点の建造物を1/25の縮尺で精巧に再現。樹木2万本、人物14万人が配置さ

B班・東武ワールドスクエア

真夏の「世界一周旅行」

通勤客で賑わう東京駅を出発、スカイツリーを見上げ成田空港へ。まずはアメリカへ。ホワイトハウスでトランプさんに会う。「相互関税15%」で合意したばかりの日米。どう評価すればいいのか。次はエジプトへ。ラクダに乗ってピラミッド、スフィンクスを見物。ちよつとクレオパトラ気分も。イタリアでコロッセオの中を見下ろす。パチカンで新しい教皇を表彰訪問。急いでフランスに飛ぶ。6年前に焼失、完全復興に向けて工事が進むノートルダム寺院は昔の姿で迎えてくれた。ロシアでプーチンさんを探したが会えなかった。

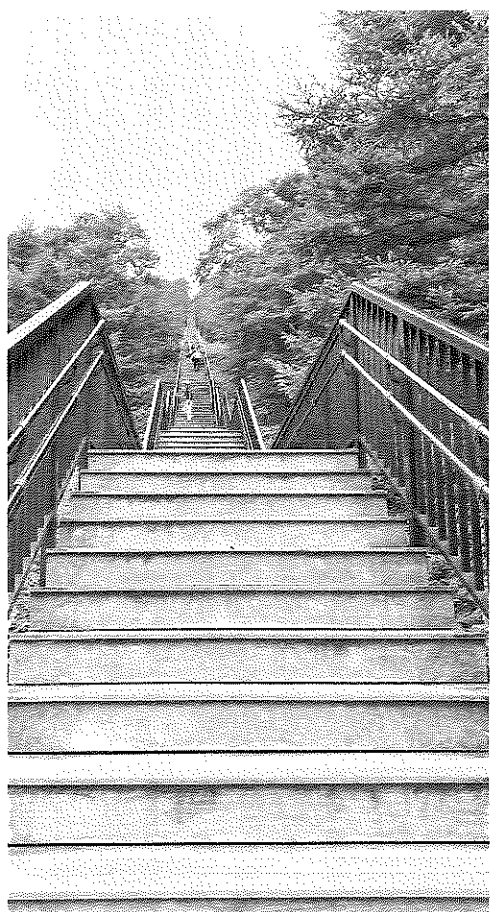


自由の女神たち

れ、全体が想像以上の見応えだった。園内に入る前は「暑いし、時間もないし、ほどほどに見てあとはゆっくりお茶を」というつもりだったが、

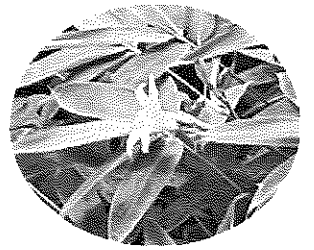
故宮や天壇公園、アルハンブラ宮殿は、全体を一目で見渡すことができる作りになっていて、とても見やすく、楽しかった。日本ゾーンは駆け足で通り過ぎる。さまざまな事情で旅に行けない状態の私には、行ったことがあるところも、いつかはと思っていたところもそれなりに楽しめるご褒美のような旅だった。

新潟支部・村山孝子(05)



1445段の天空回廊を見上げる

C班・霧降高原天空回廊
ホテルを少し早めに出発した。曲がりくねった道が続く、バスは高度を上げる。一時間かからずに到着したのが霧降高原「天空回廊」だ。この駐車場・レストハウスから「天空」へ「回廊」を行くのだそう。なんだ、階段はあるけどサンダルで登れるほどキレイになってるね。こりゃ楽勝だわ。まてまて、何か書いてあるぞ。うっ、1445段?…四国のこんぴらさんの階段が8百段、これは新採用のころに生徒と競争した。何度か登った角田山の灯台コースの階段がたぶん2百段か。でも、これだけキレイに整備されてれば、何とかいけるんじゃないかな。というところで、無謀とも言える「散策」に挑戦することになる。

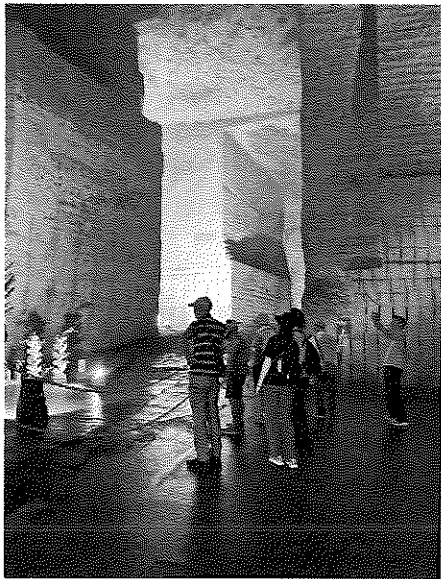


ササと針葉樹の林を、階段が続く。5百段を越えたあたりから、みんな次第に無口になり7百

段で見えてきた東屋。やつと半分か?と、見上げると一直線に続く階段。万里の長城のように、遠近法の絵画のように頂上は遙か彼方。ここからは、たまった乳酸との闘いだ。しかし新高退の挑戦者たちはこの闘いにうち勝った。

標高差240mを登り切り、小丸山展望台へ到着。待っていたのは心地よい風と、最後に咲いて、私たちを待っていてくれた2本のニッコウキスゲでした。

新潟支部・小宮山雅男(14)



気温14℃の地下迷宮

旅行直前テレビ番組で「猛暑のこの夏、是非行って見たい観光地」No.1に「大谷資料館」が紹介され、旅の期待は大いに高まりました。大谷資料館の地下探掘場跡は、1919年(大正8年)から1986年

2日目午後、宇都宮市の地上最高気温が36℃と猛暑の中、大谷資料館を見学した。大谷石の地下探石場跡は当日気温が7℃の別天地。地下迷宮に入るとあまりに広い立体空間は天井が落ちてこないかと不安になるほど。

第2回・大谷資料館

地下30mに広がる神秘の巨大空間へ

以前から大谷石の巨大空間があることは知っていました。数年前に友人から宇都宮に行った際「大谷資料館」に行き「良かった」という話を聞きました。「行ってみたい」と思いましたが「車でないと行きにくい・宇都宮に行く用も無い」で、以来、ずっと気になっている場所でした。退職者の会の旅行行程に「大谷資料館」を見つけ、申込。一度は中止となりましたが、再度の案内に躊躇無く申込

をした次第です。更に、

旅行直前テレビ番組で「猛暑のこの夏、是非行って見たい観光地」No.1に「大谷資料館」が紹介され、旅の期待は大いに高まりました。

大谷資料館の地下探掘場跡は、1919年(大正8年)から1986年

(昭和61年)までの約70年をかけて大谷石を掘り出してきた巨大空間でその広さは約2万平方メートル。深さは30メートルあり、野球場がひとつすっぽり入ってしまうほどの大きさとのこと。

年間の平均気温は8度。私達が行った7月末の猛暑の日も中の気温は14度程度。

資料館の薄暗く長い階段を下りていきました。写真やテレビで見た印象よりかなり暗い。当日は校外学習の子供達も多く、階段は下りる人・上る人で混雑状態。途中から「ここでコケたら大変だ!」と真剣に下りた感じでした。下りるにつれ、ひんやりとした巨大空間が広がっていきました。解説用のパネルもありましたが、全体的に説明が足りないと思いました。校外学習の団体はガイドさん達がいろいろ説明していました。帰宅し、調べたら事前に予約すればボランティアガイドさんもお願ひ出来たことを知り「個人でお願いすれば良かったなあ」と反省。その場で説明を聞きながら広い空間を堪能出来たら、もっと楽しめたのではないかと……これが正直な感想です。この巨大空間ではコンサートが



先日ありがとうございました。懐かしい仲間とも話をする

このあとは東北自動車道・磐城自動車道経由で一路、新潟に向かう。往路からの木村解説は絶好調。ただ、両日を通じてドライバの腕前が素晴らしすぎて、緊張のままでの帰路でありました。旅行記の他にも参加の皆さんから旅行に対する感想やご意見を頂きましたので、以下に掲載します。会員で前橋市在住の廣井さん、会員ではありませんが、参加してくださった元司書の小阪さんから感想を頂きました。皆さん、ありがとうございました。

県央支部・兼古和江(13)

開かれたり、結婚式場もあるとのこと。残念ながら非公開で見学できない部分も多くあり残念でしたが、ここで多くの映画やドラマの撮影が行われているようで、創作者達の意欲をかき立てる神秘的な場所なんだと実感できました。のんびりしていたら周りから同行の方々の姿がなくなり、焦って階段を上り地上に出ました。猛暑の空気に満たされていて、一気に現実に引き戻されました。

ことができ、大変楽しい時を過ごすことができました。

退職してから17年経ちました。群馬のほうに戻ってきたため、新潟で行われる行事に参加できなく残念に思っていました。先日新潟退の旅行で群馬を通ると連絡があり、お昼の時間だけでしたが、退職して初めて行事に参加しました。

懐かしい仲間と話していると、執行委員で支部内を回っていたことや、学校での学習会、教研集会での発表等々、当時が思い出され、20年も昔に戻ったような気持ちになりました。短い時間でしたが楽しい時を過ごすことができました。今、小中学校に勤務し、不登校生への家庭訪問をしています。16年目を迎えますが、まだまだ必要とされているようでもう少し頑張ってみたいと思っています。

機会があったらまた参加したいと思います。その時はよろしくお願いします。

魚沼支部・廣井勲(08)

思い出の記

「参加者が1人足りなくて幹事が困っているみたい。どうですか?」という友の声に誘われ、今

年7月、新潟県高等学校退職者の会栃木旅行に参加しました。

参加決定の要因になったのは、魅力的なコース設定にありました。空を見上げる「霧降高原天空回廊」に無謀にも挑戦し1445段階破出来た喜び! 地下空間に広がる大谷石採掘場跡「大谷資料館」の圧倒的迫力! 何度も訪れている日光ですが、まだまだ見どころはたくさんあることに気づかされました。

さらに何より驚かされたのは、バス内での木村会長のコース解説です、溢れんばかりの豊富な地理歴史知識とよどみない流暢なお話に感服しました。また内山幹事さんの丁寧で綿密な旅行計画や、参加者皆さんのパワフルな行動力にも感動しました。高校退職教員恐るべしです。

家庭の事情で久しく泊まりがけの旅行はしていませんでしたが、参加出来て本当に良かったです。会員では無い私を温かく迎え入れて下さった皆さん、お世話になり大変ありがたうございま



た。会のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

三条市・小阪幸江(19)

「参加者が少なければ今回が最後の退職者の旅行かもしれない」と仲間の一人に聞かされそれは大変だと参加を決めた。送られてきた要綱で今回の参加者の中で、退職者の会所属期間が一番長いのは自分であることを知った。定年退職より2年早めにやめたこともあったとはいえ、早自分が参加者の中で「一番の古狸」になってしまったのかと、過ぎし日の旅の数々、一緒に楽しんだ先輩参加者の顔などが矢継ぎ早に浮かんできて感慨深いものがあつた。残念ながら鬼籍に入られた方も大勢いらっしゃるだけに思ひ出は尽きない。退職後25年目に入っているのだが、この間退職者の会の先輩諸氏

との有意義な時間は私の人生にどれほど彩を添えてくださったことか。三陸沖震災直後の被災地への旅も印象深く、世界遺産登録間もない熊野古道も歩きました。九州から北海道まで、

そして海外へも2度行きました。入会以来会の役員の方々にはお世話になり放題で今日に至っています。今回原稿を書くにあたっては長い間のお礼を伝えたく、またこれを願うことです。

新潟支部・熊林薫(00)

この度は大変お世話になりました。昨年の寺泊も内容の濃い一泊旅行でしたが、今年はそれ以上だったと感じています。移動時間が9時間もかかったのに、木村さんの周到に準備されたバス中の講話は全くそれを感じさせませんでした。

個人的には霜降高原の天空回廊、1400余段を昇りきれたことが何よりでした。準備してくださった皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございました。

新潟支部・諏訪淳(14)

霧降高原も歩きたかった。鬼怒川ライン下りもしてみたかった。この旅、もう一回行きたいくらいです。

早くも「来年はどこへ・・・」の期待が・・・

新潟支部・村山孝子(05)

退職後の生活

あれから10年・

新潟支部・小山智保子(15)



悲しいことに、血糖値は上がり、歯茎は下がり、息

は上がるし愚痴は増えた。

61歳から再任用2年、児童クラブの指導員を5年、週8時間の非常勤を1年、あとは子育て支援(孫ではない)と家事と菩提寺の草取り等々で10年過ごしている。その間に母を見送った。コロナ禍で病院では面会もままならず、介護サービスを利用して我が家で5週間過ごした。長生きしてくれたお陰でゆっくり一緒に過ごすことができた。

この10年ではっきりわかった事は、仕事をするには仲間が必要だということ。組合は絶対必要、仕事しながら話して、情報交換、技術の伝承、助け合い。ときには笑って、ストレス解消して、問題(悩み)解決になったりして。

今は仕事に欠かせないPCが仲間

間を遠ざけているかも知れない。

それとずっと考えていたことは、

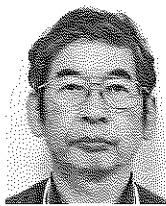
心の進化。進化した心は戦争をしない。人類のほとんどは進化を上げていえると思われるが、困ったことに一部の指導者といわれる人々の心が進化していないらしい。

AIの研究者は人間(自分)を理解する研究だと言う。その研究者の言った事が「心が進化すると戦争をしない」

テクノロジが進歩しても平和の追求が続いていると感じて、少しホッとした。

家庭菜園 近況報告

新潟支部・太田光太郎(15)



退職後、母の介護が始まって、釣り・天体観望・自然観察

等の野外での趣味は年々できなくなり、現在は実家で介護の隙間に、家庭菜園と庭の自然観察を楽しんでいます。

庭の隙間(3畳)と野菜用植木

鉢(軒下と庭の通路脇)で殺虫剤などを使わず、野菜を作っています。畑は、真砂土からの土作りで、生ゴミと除草後に乾燥させた雑草を毎年埋め込み、やっとなの土らしくなってきました。

野菜用植木鉢は、最初数鉢でしたが現在は30数鉢になり、夏野菜は自家用としてはある程度確保できています。

今年の畑は、一つ畝に春大根を植えました。一部の大根は、高温の影響で外側は普通なのに中心部が湿気た切り干し大根のようになっていましたが、料理をするときと普通だったのではとしました。別の畝には中玉トマトを植えていましたが、夏の異常気象で成長が悪く、高温と長雨で昆虫による受粉の率が悪く、秋になってやっとな収穫できています。

野菜用植木鉢では、イチゴ・オクラ・カボチャ・キュウリ・ゴーヤ・ナス・ピーマン・ミニトマトなどを作っています。ナス・ゴーヤ・オクラ以外は去年より減収でした。

完熟イチゴでジャムを作るので収穫はアリ・ナメクジ・カラスとの競争で、イチゴの香りが強く、油断をしていると彼らに食べられ

てしまいます。今年は150mlジャム瓶で3個となりました。

ウリ科について、(被害に強い)ゴーヤ・カボチャ・イトウ・ウリ・キュウリ・メロン(被害に弱い)の順でした。野菜用植木鉢のため、一回り小さい実となっています。メロンとイトウは今年初めて作りましたが、メロンはウリ・ハムシ、ナメクジ、ヨトウムシなどの被害がひどく収穫できませんでした。

これからも介護の空いた時間で家庭菜園を続け、野菜の虫害や病気を見ながら土の改善などを色々と工夫して挑戦します。

退職後の生活

県央支部・加藤春美(15)



早いもので、来年退職満10年を迎えます。特にコロナ騒動以降、学校現場は変化の連続で、長い10年だったのではないのでしょうか。現役の先生方には頭が下がります。

様がわりしたとはいえ、高校は人生の一番美しい時を生きる生徒たちで、活気にあふれていることでしょう。担任として新入生を迎

えて、一緒にいろいろな季節をすごし、3年後巣立っていくのを見送る。その時間の流れを、10年たった今、懐かしく思い出します。

力不足だった私は後悔することが多く、今も生徒の顔を思い出しては、悲鳴をあげることがあります。

生徒に、「進路を考えなければならぬのは、あなたたちだけじゃない。生きていけば、進路の悩みはずっとついてまわる。」と話しことがありました。

退職を意識したとき、私も進路を考えました。巣立っていった生徒たちに、猫背をからかわれたので、何とかしようとジムに通い始めました。申し込みに行ったのは卒業式の翌日です。「背筋の伸びた生活」という夢は実現していませんが、プール付きのジムであったため、何とか泳げるようになり、今は週3回プールに通っています。

以前から、「年金保険を掛けるつもり」で習っていた書道は、生活の励みです。

来年4月から退職11年目。新入生を迎える気持ちで、「進路学習」(世間では、これを「終活」というのでしょうか)に励んでいきたいと思っています。ご指導をよろしく願います。



多くの出会いの中で

長岡支部・鈴木信行(24)



1986年から村上桜ヶ丘高校に6年、栃尾高校4年、堀之内高校10年、長岡商業高校8年、塩沢商工高校6年、三条商業高校に5年+再任用1年と勤務してきました。

商業科の教員として、準プロパー校から複数の学科を持つ高校などさまざまな校種を経験する中で、自然に生徒指導や教育相談を自分のライフワークにしてやってきました。特別支援教育コーディネーターやいじめ対策推進教員、不登校担当教員になる前から学級経営を通して、多様な生徒との関わり

合いの中で教員生活を送ってきました。部活指導はほぼ野球部です。

「高校野球の指導者になりたい」だけで、高校教師になった私ですが、初任校で、生涯の師と仰ぐ先生に出会えたことがその後の自分を形成したと思っています。

未だに、「今の私を見て先生はどう思われるだろうか」と自分に問いかける日々です。その後、2校目でも同世代の、今でもかなわないうと思う先生に出会うことができました。

組合活動がまともにできるようになったのは3校目位からでしょう。魚沼支部が一番長かったです。遠距離通勤も経験しました。

定年までの5年間は、変わりゆく生徒・学校、教育環境への対応に追われました。再任用でもうしばらく頑張ろうと思っていますので、今「退職」の実感はありませんし、生活も変わりありません。好きな野球を「還暦野球」でもしながらと思っていました。年々身体は付いていかず、仕事は精神的にもますますハードになる一方で、思い描いていた生活とは大きくかけ離れています。高校退職者の会の皆様にはこれからお世話になります。宜しくお願いします。

定年退職を迎えて

長岡支部・宮山恭典(25)



今年の3月に、61歳で定年退職を迎えることができました。三条工業をスタートに、十日町実業・総合、柏崎総合、正徳館、小千谷西と異動して、4月から長岡農業で暫定再任用として勤務しています。またこの間、新高教本部でも、専従として4年間微力ながら務めさせていただきました。

さて、退職を機に新しく始めたことは特にありませんが、少し前から週末に低山を中心に登っています。ほとんどが日帰り登山ですが、先日は少し頑張って中ノ岳に行ってきました。久しぶりの高山で後半はバテてしまいましたが、何とか日没前に下山することができました。これからは無理をせず、に続けていきたいと思っています。年金支給まではまだしばらくの年月がかかるため、今の仕事は続ける予定です。それと併せて、何か資格を取って収入に結びつけることができないうか模索しています。退職で一区切りはつきましたが、今までと同じように働いているた

め、あまり退職の実感はありません。

退職者の会には早速入らせていただきましたが、なかなか日程が合わずに行事等に参加が難しい状況です。少しずつできる範囲で都合をつけて、活動していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

自由って最高

県央支部・高山千恵子(24)



大学卒業後、私立高校で1年講師をした後、採用されました。

興農館高校、分水高校、長岡明德高校、新潟県央工業高校、長岡向陵高校、長岡大手高校と6校を経験し、60歳で退職しました。新潟高教組には新採用の年に入りました。3月末の「退職を祝う会」で「教員の世界とは縁を切って」とスピーチしたら、新書記長に「そんなこと言わずに」と声をかけられ、そうね、組合とは縁を切らなくてもいいわ、と思い直し、高校退職者の会に入れていただきました。

三条に家建て、今もそこに次

男と夫と3人で住んでいます。2004年7月13日の豪雨で、職場と自宅と両方被災しました。その際、支部長と女性部長がお見舞いに来てくださり、うれしかったのを覚えています。同居していた母(実母)に顕著な認知症の症状が出始めたのは水害の復旧の時期です。そして次男が不登校になりました。母は、2012年に施設に入所し、2015年に亡くなりました。次男も中学校からは登校するようになり、今思えばあの8年間の私の危機でしたが、あの時仕事があったからバランスが取れていたのだと思います。

職場の仲間、家族、組合、民間の教科研究会や生活指導研究会に助けられ、何とか教員生活を続け、ゴールまで辿り着きました。

ウェイトリフティングと小原流生け花はもう15年になります。退職後は、まずは断捨離で居場所を整えてから、公民館の市民講座に通ったり、プールに行ったり、映画や演劇を鑑賞したり、たまに低山を登ったり、庭仕事をしたり、ただただ楽しいだけの毎日です。AIに「働いていないので、肩身が狭い」と相談したら、「人生100年時代、退職後の過ごし方も

人それぞれでいい。自身の幸せの定義を考えてみてはどうか」と励まされました。自由ってすばらしい。これが今の心境です。

田んぼに専念

佐渡支部・畑中耕生(22)



昭和最後の年
度津南高校で
新採用となり、
長岡向陵高校、

地元佐渡に帰り、相川高校、佐渡高校、佐渡総合高校と勤務し。そのまま佐渡総合で2年間の再任用後、この春退職し米作りに専念することになりました。

あと3年は再任用の期間があったのですが、60の退職の年が近くなった頃から、集落では若手のため、近所の人から田んぼを代わりに作ってほしいとの依頼がぞくぞく来るようになりました。この四月から倍の3町歩(3ha)となったため、今までのように土日に騙し騙しやっていたにはとても無理となったため田んぼ一本でやっていたことにしました。

37年間の教員生活を振り返ると、初任校1年目からこの春まで、ずっとバドミントン部の顧問に就か

せてもらえたことがとてもありがたいことでした。特に佐渡に帰ってきてからは、地元の先輩、後輩の協力により何度も北信越大会に出場でき、2013年にはインターハイにも出場することができました。インターハイはもう一度出場したかったのですが、何度もあと一步のところまで行きながら叶わなかったことが心残りです。ただ、毎日子どもたちと同じ目的をもって汗を流せたのは大きな財産と思い出となりました。

退職して少しは楽になるかと思いきや、自然相手ですので、天気が良ければ、高市早苗ではないですが馬車馬のように早朝から日暮れまで働き、ようやく稲刈りが終わり一息ついているところです。この原稿も締め切りの今日あわて書いている始末です。ただ、これからはオフシーズンになりますので空いた時間を有効に使いワークライフバランスを充実させていきたいと思っています。部活の遠征で各地に行かせてもらいましたが、宿と体育館の往復のみでしたので、年1回はゆつくりと旅行をしてみたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

定年を迎えて

(部活動の思い出)

新発田村上支部・野本雅裕(22)



この春、無事
定年を迎えるこ
とができました。
現在は再任用教

員としてフルに勤務しており、担
任もしていますので、定年になっ
た実感は、ほとんどありません。
新採用になってすぐの4月、会
議があるというので会議室に行っ
たら、分会会議でした。憧れるす
ばらしい先輩教員の方々は組合活
動でも活躍されており、組合に入
るのはまったく自然の流れでした。
授業には当然熱心に取り組んだ
つもりですが、思い出に残ってい
るのは部活動です。

新採用ではソフトボール部。2
校目にはソフトボール部はなく、
空いていたバレーボール部で、ロ
ーテーションも知らないなかゼロ
からのスタートでした。3校目で
は女子バレーボール部。そこには
実績のある「大監督」がおられ、
その下でコーチとして2、3年間
バレーボールを教えてもらいまし
た。監督になり、県大会で数回ベ
スト8まで進出することができま

した。これからの教員生活、バレ
ーボールで頑張るぞと思ったもの
です。

そんな意欲を持って異動した4
校目、その学校にはバレーボール
の専門家がまさに溜まっており、
あまり人を押しのけていく性格で
はない私は、2年目に県総体の総
務委員長を務めたのを最後にバレ
ーボールから足を洗いました。時
間に余裕ができたので、前から興
味があったテニススクールに入り
ました。草大会にも出るようにな
り、すっかりテニスの面白さの虜
になってしまいました。少し充電
したらバレーボールに戻ろうと思
っていましたが、すっかりその気
は無くなりました。部活動はテニ
ス部を希望しましたがなかなか空
かず、持ち手がいなかった空手部
や写真部の顧問もしました。2年
間の「浪人」生活の後、念願のテ
ニス部の顧問になりました。毎日
生徒と一緒に練習し、生徒も私も
上達していききました。

現在もテニス部の顧問として、
仕事をやりくりして放課後すぐに
テニスコートに行き、高校で初め
てテニスを始める生徒にテニスの
楽しさを教えるべく頑張っていま
す。

これからは、テニスができるよ
う健康で、美味しいビールを飲む
ことができるような毎日を送って
いきたいと思っています。

自分の趣味を大切に

佐渡支部・日野八潮(22)



令和4年度末
で定年退職し、
その後佐渡総合
高校で再任用職

員としてお世話になっておりまし
たが、令和6年度の末をもちまし
て高校現場での常勤の勤務を終え
ました。現在非常勤講師として羽
茂高校ではんのわずかな時間お手
伝いさせていただいております。

平成9年に最初の佐渡での勤務
を経験し、その後はずっと佐渡に
おりました。担当教科は国語科で
す。退職後は、家が神社でもある
ためその神主を務めております。
また、たまたまの回り順で集落の
区長を務める番に当たり、令和7
年1年間務めてきました。区長の
仕事は地域の大先輩と話をさせて
いただくと同時に元気な若者とも
付き合わせてもらおうという、とて
も大変ながら魅力的なものでした。
先ほど述べました神主の仕事にし

ても同じですが、それぞれの立場
立場で一つのことでも様々な見え
方をするものだという当たり前の
ことを改めて実感したところです。
また、困りごとがあった時には必
ず手を差し伸べてくれる人がいる
というよく言われることも改めて
実感しました。

周囲を見渡してみますと、当然
のことながら、みんないくつか
「困ったこと」を抱えているよう
です。それなのに元気な先輩には
いつもその元気を分けていただき
ます。ぜひ真似したいものと思っ
ております。いろいろなキーワー
ドがあるのでしようが、まず一つ
めとして自分の趣味を大切にする
こと、これを自分のやり方にして
みようと思っています。時々自分
の趣味の音楽を通じてつながる世
界に身を置いてみると、とても心
が安らぐのです。趣味の世界での
人とのつながり、仕事でも同じだ
ったのかもしれない。「そうだ
よね」と共感し合えるよろこびは
やはり大きいものですね。大事に
過ごしていきたいものと思ってお
ります。
お世話になります。よろしくお
願いします。

新高退定期大会報告

2025年度定期大会は6月25日に高校会館で開催されました。

参加者は、代議員18人(定数21人)、来賓1人(新高教書記長)、本部役員9人の総勢28人でした。昨年度と比較して14人少なくなりましたが、これは今年度の大きなテーマである、組織の現状を踏まえた変更の一環です。代議員数を削減し、外部の来賓は要請しませんでした。

開会、黙祷、会長あいさつのもと、来賓メッセージが文書紹介され、『2024年度経過報告』、『2024年度会計決算報告』を行いました。

所見では、会員数がこの10年間で年平均49人減少と急減するなど昨今の状況の大きな変化により再び財政運営の検討が必要となったこと、上部団体分担金は当面削減できないが、事務局費(事務局会議、出張、日当など)、会議費、支部補助金、本部事業費(通信発行費等)などを、会員数の減少に合わせて削減しなければならぬことを説明しました。

続いて平野伸一会計監査委員より2024年度会計監査報告が行われ、拍手で承認されました。

議事に入り、1号議案『2025年度活動方針』が拍手で承認されました。先ほどの所見に基づき、副会長人数を4人から1人に削減、大会代議員数を大幅に削減、新高退通信発行を6月・12月・3月文書配付の3回に削減(9月は廃止)などが盛り込まれました。

【事務局より】

今年度から新高退通信の9月発行を廃止し、さらに年1回発行に推移していく予定と説明しました。が、代議員から「通信は組織の要、これ以上減らさないでほしい」との意見が出され、6月と12月の通信発行を維持することを、大会総意として了承しました。

またこれに関連して、支部から希望があれば、会員配付用の封筒(9月に利用)は提供することにしましたので必要な場合は余裕を持って申し出てください。

(内山)

北プロ定期総会報告

6月11・12日に石川県粟津温泉で第49回定期総会が開催された。昨年1月1日の能登半島地震、そして9月の能登豪雨にもかかわらず2年とも開催にこぎつけた石川県退教、高退教に心より敬意を表したい。

総会は来賓の日退教・平岡事務局長、日本教職員相互共済会・加藤理事長、開催県からの14人を含め29人の参加で行われた。坊石川高退教会長挨拶、両来賓挨拶、石川高教組・大柳執行委員長の歓迎挨拶が行われた。

議事に移り、2024年度活動報告・決算報告・会計監査報告のあと、協議事項として2025年度活動報告。「トランプ大統領による自国ファーストの独善的政権運営は民主主義と法の支配を否定するもので、国際情勢の不確実性がより高まるおそれが生じる」「衆院選挙で自公政権は過半数割れをした。教育や命など、人権・生活を守るための取組みや運動を進める好環境にある。低下傾向にあるわれわれ退職者の組織率を反

転向上させ組織を維持強化するために、知恵と情報の共有がより強く求められる」など11項目の『情勢』。「現退一致を基本とする日退教の方針を踏まえ、北陸ブロックの課題の実現に取り組む」など4項目の『基本方針』と「退職後の生活を支え合う組織として、交流を重んじ、共に学び合う機会づくりに努める」との7項目の『活動の重点』が提案され、承認された。また、2025年度会計予算・同役員選出も提案され、承認された。

学習会は石川高退教前会長(現副会長)で能登在住の神戸一朗さんの「能登半島地震・豪雨、被災の現状」と題する講演。「50秒!の揺れで、動けなくなった」との能登半島地震の体験、馳県政・岸田国政の対応の実態、地震よりも酷い豪雨被害について。地震・豪雨を実際に体験した話だ。昨年の講演でもあった震源の珠洲に原発があったらの想いを強くした学習会だった。

事務局長・石野公久

日退教定期総会

「運動に連帯し支えあおう」

戦後80年にあたる2025年度定期総会（隔年開催）が6月6日に日本教育会館で開催されました。概要を報告します。

前年度経過報告、2025年度活動方針、前年度会計報告・監査報告、役員選出、定期総会スローガンの4本の議案が提案され、質疑、意見、討論の後、賛成多数で原案が採決されました。

日退教組織の現状は、「2024年までの6年間で組織人員が15%減少し、4万人強」となり、連関して、会計の収入面では、日教組、相互共済からの交付金が会費を上回り、「事務所開設特別会計からの借り入れという厳しい財政状況に直面する」ことになり、「組織財政検討委員会の議論を深め、早めに結論を望む」との監査意見が出されました。ブロック制、署名、カンパ等の活動の取り組みと共に「財政構造の見直し、現退と連帯しての会員拡大の取り組みが不可欠」という日退教の歴史にない厳しい状況に直面することになっていきます。

全国高齢者集会

「生き生きと安心して暮らせる社会をつくろう」

9月18日、文京シビックホールで全国高齢者集会が開催された。以下に概要を記す。

①主催者代表（日本退職者連合会長）挨拶では野田那智子氏が、『原爆投下から80年だが世界では核の脅しが横行している。私たちは核兵器廃絶、核なき世界を目指して運動を強化する必要がある。生活苦は決して自己責任ではない。長生きが悪いような風潮を広め、世代間対立をおおるのはやめて誰もが生きやすい社会をめざそう』などと話した。続いて、連合事務局長の清水秀行氏の挨拶、来賓の野田佳彦（立憲民主党）・浅野哲（国民民主党）・ラ

サル石井（社会民主党）の各氏が挨拶。②基調報告は最後に「私たち日本退職者連合は、平和と民主主義を守り、誰もが個人として尊重されるジェンダー平等社

会の実現に向けて、連合とともに現退一致となって取り組みを進めていきます」と結んでいる。③警察庁特別防犯対策監（歌手・俳優）杉良太郎氏が「世のため、人のために、どう貢献できるか」と題して講演。④高校生平和大使として3年間活動し、現在は大学生の木場笑里さん、安野美乃里さんがそれぞれのこれまでの活動や思い、ノルウェー派遣の経験など当時の取組みを報告。

⑤最後に「心豊かに生き生きと暮らせる社会に向けて、憲法が保障する平和的生存権を不断の努力で未来につないでいこう」との集会アピールを採択し、団結ガンパローで集会は終了した。

(舟山)



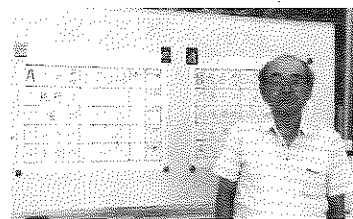
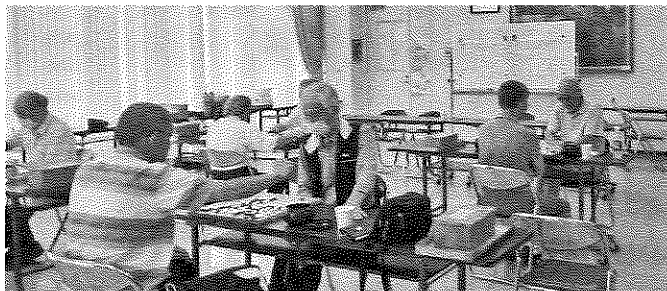
(木村)

全県同好会「囲碁の会」大会報告

全県同好会「囲碁の会」は今年も大会を9月12日に同じ高校会館3F会議室で開催した。

参加者は本間真澈(新発田村上・四段)・渡部良一(同・初段)・鈴木信義(新潟・五段)・大原栄亮(同・三段)・有坂勝(県央・三段)・堀行(魚沼・四段)・佐野達哉(上越・七段)・涌井芳昭(佐野代表の友人・初段)の昨年と同じ8人。

大会は木村会長の「厳しい組織状況の中、参加いただき開催できることに感謝します」との挨拶で始まった。
佐野審判長より、「8人の参加で昨年と同じ対戦方法(段位でA・B・C・Dのクラス分け、



鈴木信義さん

総当たり戦と同順位のクラス1局。手合いは①段差1子、持碁白勝つて先番6目半コミ出し、

結果は、Aクラス鈴木(3勝)、本間(2勝1敗)、佐野(1勝2敗)、堀(3敗)。Bクラスは渡部(3勝)、涌井(2勝1敗)、有坂(1勝2敗)、大原(3敗)。クラス1局は全てAクラス者が勝ちとなった。最後に佐野審判長より各クラス1位者(鈴木五段・渡部初段)に来年度は1段上げを伝え、大会を終了した。

前事務局長・石野公久

十日町de「懇親会」報告

昨年、コロナ禍後久しぶりとなる「寺泊de懇親会」を開催しましたが、今年は「十日町de懇親会」として、10月15日・16日に17人(新潟8人、長岡6人、魚沼2人、佐渡1人)の参加で実施しました。計画段階から中心に関わってもらった地元魚沼支部滝沢貞親さん、6人の親睦旅行としての長岡支部などの参加で成功裏に実施できました。

1日目、13時に十日町駅駐車場に集合した10人は山手線の電力を賄っているJR東日本信濃川発電施設の宮中取水ダム、浅河原調整池、千手発電所を発電所所員の案内・説明で約3時間見学を行いました。その後、星峠の棚田を見て宿(雲海)に到着しました。支部行動の長岡支部は松代駅周辺の街並みや能舞台、



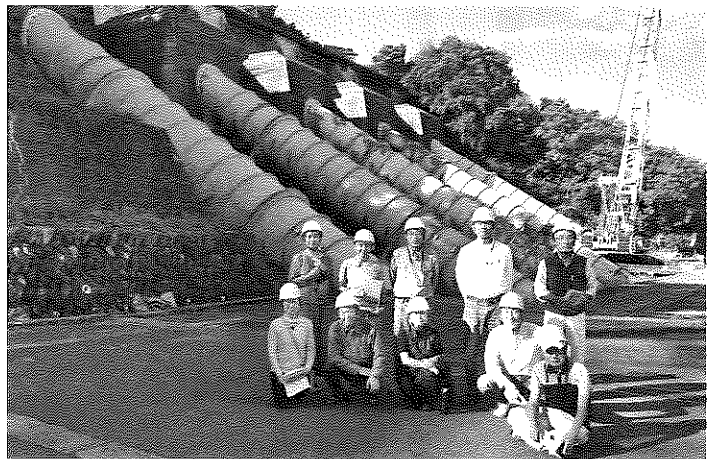
大地の芸術祭跡地を巡って「雲海」で合流しました。

宿は他の客グループとの関係で19時からの夕食となったため、眺めの良い露天風呂を堪能することができましたし、夕食懇親会は単独だったのでゆつくりと和気藹藹に過ごすことができました。

2日目の朝食時、昨晩の懇親会で食べ方などの説明があった処理済みのあまんだれ(ナラタケ)が滝沢さんから全員に配られました。そして、キノコ狩りと地域探訪(織物工場見学・十日町市博物館)の2班に別れて行動しました。

「樽田の森」でのキノコ狩りは8人が参加し滝沢さんの案内で一定の収穫もあって楽しみました。天気もなんとか持ち、危惧した熊にも遭遇せずすみしました。

千手発電所水管の前で



地域探訪の9人は吉沢織物昭和町工場見学で、工場長の案内で熟練工が行う友禅染の一貫生産体制の全工程と伝統技術士による明石縮の織り作業と新旧織機の説明を受け、同織物会社の「きもの絵巻館」を見物しました。最後に国宝の笹山遺跡火焰型土器をはじめとする多数の縄文土器を展示する十日町市博物館を見学しました。

全計画を実施できたこと、2年連続で開催できたことを参加者の皆さんの協力に感謝します。

前事務局長・石野公久

東京雑感

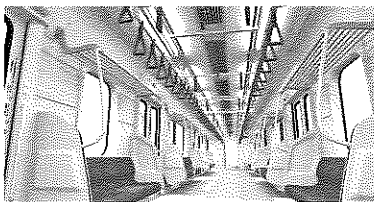
人の優しさを感じた

先日、東京と横浜に行ってきた。訳あって杖をついて行ったのだが、何度も人の優しさに出会った。東京のど真ん中で、自分でスマホで調べることもできたが、面倒くさくて歩いてきた3人連れの高校生に道を尋ねた。

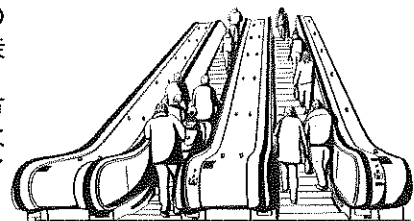
すると、3人は歩みを止め、お互いに知ってるか尋ね合った後、スマホで調べて丁寧に道案内してくれた。札を言っただけのときとは、東京の高校生が「お氣をつけて」と言ってくれたのだ。

満員の京浜東北線に乗り込んだときには、若い男性が、無表情で「どうぞ!」と席を譲ってくれた。この時間帯はすべて快速で次の駅で降りるのだが感謝を述べて腰を落とした。

杖をついていたことで、ほかに道を譲られたり、優しい声を掛けられたりと、こそばゆい感じで人の優しさを感じた旅になった。



順立たしい悪習



東京ではまだ『左立ち右空け』だった。エスカレーターの乗り方の話だ。『急いでいる人のために』等と屁理屈を言われるが、私は、この乗り方はマイナスが大きいと思うので、右手で手摺りに掴める右側に意図的に乗ることにしている。

急いでいる人は、大概併設されている階段を使えばいいわけだし、右側を歩かれるとぶつかられて転倒の危険もある。

また、エレベータを動かす軸受けなどの機械部分に対する荷重が不均衡になり、不等摩擦による故障に直結すると思うからだ。また、両側に乗れば理論的には全員が半分の時間で上の階に上がれる。

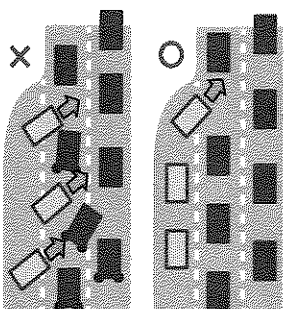
最近「エスカレーターは歩かず両側立ちで」などの呼びかけが新潟駅でもされているが、そろそろ片側立ちはやめてせめて『さみだれ立ち』になって欲しい。

ファスナー合流

交通量の多い道路の合流で、先頭まで進んでから合流すると、「順番待ちしろ!」「先頭合流はズルい!」と思う人が多いかもしれない。しかし、この合流スタイルは「ファスナー合流」と呼ばれていて、道路の渋滞を緩和させる合理的なマナーとして公式に推奨されている。

ファスナー合流をしないと、合流車が本線にバラバラのタイミングで割り込むため、そのたびに本線の車がブレーキをかけることになり、本線の流量が低下して合流の後方に長い渋滞が伸びてしまうということ。

都内ではこのファスナー合流が根付き始めていると見えた。新潟ではまだまだだが、それでも私は本線流量をなるべく乱さないために先端合流(ファスナー合流)をする。



(内山)

「活動日誌」・点描

■「税金は暮らしの拡充に、戦争準備の軍拡は中止して、憲法、平和、いのち、暮らしを守る政治への転換を求める請願署名」の取り組み(4月30日) 集約数135筆

■事務局会議(6月4日)『通信151号』発送 ■日退教第51回定期総会(6月6日) 日本教育会館、代議員・木村 ■北陸ブロック定期総会(6月11・12日) 石川県小松市、木村・石野 ■県退職者連合幹事会(6月13日) シルバーホテル、木村 ■各支部総会新潟(6月3日)、県央(6月13日)、佐渡(6月15日)、新津(6月18日)、上越(6月22日)、長岡(6月24日)、柏崎(6月28日)、新発田・村上(6月28日) ■事務局会議(6月18日) ■新高教第44回定期大会(6月25日) 高校会館 ■事務局会議(7月16日) ■栃木旅行(7月23・24日) 参加18人 ■県退職者連合第33回年次大会(7月25日) 東映ホテル、木村、小林・松月・舟山 ■WEB署名「子どもたちを強制送還しないでください！#子どもの強制送還をやめて」の提出(8月18日)

■教育をよくする県民会議総会(8月22日) ユニゾンプラザ、木村・舟山 ■日退教「2025年度組織現況・実態調査」(9月1日) ■事務局会議(9月3日) ■全県同好会「囲碁の会」(9月12日) 高校会館、8人参加 ■新高教研(10月4日) 高校会館、新高退からも参加 ■新退連第1回拡大幹事会(9月12日) 木村

■2025年度高齢者集会・女性参加者の集い・政治学習会(9月17・18日) 舟山 ■第31回5者合同学習会、第31回日退教組織活動交流集会(10月9・10日) ラポール日教済、不参加 ■「十日町de懇親会」(10月15・16日) 『まつだい芝峠温泉雲海』他、参加17人 ■団体署名『狭山事件の第4次再審請求において鑑定人の証人尋問をおこない再審を開始することをお願いします』の提出(10月17日)

編集☆集☆後☆記

『栃木旅行』は、もともと日光東照宮の「平成大修理の完成」を見届ける旅として2020年3月に作った計画だが、5年の歳月を経てようやく実施できた。これもサ

ポートGの後押しと参加者の協力のおかげだ。

今回はじめて、了解を得て参加者のLINEグループを作成し、事前の資料配付や連絡に活用した。時間的には即時、費用的には無料で適時的確に情報伝達ができ、初めての試みだったが非常にうまく運用できた。

双方向で情報の伝達と問い合わせができたこともあって参加者からも一定の評価を得た。今後、新高退の組織には必須のツールになると感じた。

個人的には、この足では無理と思っていた『日光東照宮奥宮』まで行けたこと、『霧降高原天空回廊』の見上げるような1445段の階段を登り切れたことに、久しぶりの達成感を感じた。

『退職後10年・新会員から』は、該当の会員が合わせて10人、該当者が少なくなったものだ。以前は載せきれずに次号掲載となったこともあるのに。それでも事情はなし、9人から原稿をいただいた。今後通信継続のため会員の皆さんのご協力を。

『囲碁の会』は、もとは本部企画として全国まで繋がっていたが、全国大会が終了したために全県同

好会として再スタートしたもの。参加者は高齢化したが囲碁に対する意欲は旺盛だ。

『十日町de懇親会』は、本部企画の柱となってきた。かつての学習会や講演会、さらには旅行などが難しくなってきた現在、現地集合で、参加自由の研修+懇親会というスタイルはこれからも重要だ。

『東京雑感』は、私が東京に行ったときに経験し、日頃から感じていたこともあってぜひ伝えたいと思ったことを書かせてもらった。

(内山)

ご冥福をお祈りします

(括弧内数字は現職退職年度)

- | | |
|---------------|-------------|
| 近藤 一 さん (04) | (新潟支部) 5・10 |
| 池田 亨 さん (95) | (魚沼支部) 6・9 |
| 桑原 圭司 さん (97) | (上越支部) 8・5 |
| 知野 敬慈 さん (09) | (県央支部) 8・6 |
| 金子 徹治 さん (03) | (佐渡支部) 9・16 |
| 山崎末一郎 さん (94) | (新潟支部) 9・22 |